

## 文化財の防災計画に関する研究 (①必修05-12-2/5)

### 目 的

自然災害による文化財被害は甚大であり、復旧には多大な労力と時間を要する。我が国では自然災害の発生予測が難しいうえ、発生後すぐの救援はほぼ不可能である。そのため、「減災」の方向性を探ることが他分野よりも求められている。本研究課題では「地震・津波」を対象に下記の調査研究を進め、文化財の減災に必要な研究成果を提供する。

### 成 果

平成24年度は、1. 東日本大震災被災文化財に関する研究では、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会として警戒区域内での文化財救援活動を実施するとともに、他県での救援文化財一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験を行った。2. 文化財の地震対策に関する研究では、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。

#### 1. 東日本大震災被災文化財に関する研究

文化財レスキュー活動が緊急事態を脱したなか、被災文化財の安定収蔵に向けて調査研究を行った。

- ・東京電力福島第一原子力発電所事故により設定された警戒区域内の文化財を救援するため、東京文化財研究所が中心となり救援活動を実施した。また、活動にあたり必要な情報提供を行った。
- ・一時保管施設の保存環境調査：釜石市の中学校跡や陸前高田市立博物館（旧生出小学校）などでカビ発生状況の調査を行うとともに、石巻文化センターや旧東北歴史資料館浮島収蔵庫における温湿度調査を継続した。
- ・気仙沼市で救援された具足（個人蔵）や鹿嶋市龍蔵院の仏画などの応急処置・修復に関する研究を進めた。

#### 2. 文化財の地震対策に関する研究

東日本大震災にて多数の被害報告があった石灯籠を対象に、今まで実施された地震対策について振動台実験による評価を行った。また、輪王寺慈眼堂廟塔附石造六天像、宝積寺九層石塔（大山崎町）など石造文化財の現地調査を実施し、地震対策の必要性について考察した。

### 論文

- ・森井順之「特集 東日本大震災から1年を経過して ●美術学芸課の取り組み 事例5 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会による文化財レスキュー活動の取り組み」『月刊文化財』平成24年4月号 (No.583) pp.30-31 12.4

### 発表

- ・森井順之、運天弘樹、藤田悠貴、久世めぐみ、花里利一「彫刻作品の地震時転倒確率の簡易予測に関する研究」日本文化財科学会第29回大会 京都大学 2012.6.23-24

### 研究組織

○朽津信明、岡田健、佐野千絵、早川泰弘、木川りか、中山俊介、北野信彦、犬塚将英、吉田直人、早川典子、森井順之、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、職員全員